

秀 賞



トジヨン

新潟県新潟市立藤見中学校

二年 鈴木 里奈

「チェミッツ?」私は隣で一緒に歩いている韓国の小学生、ガヨンに緊張しながらも思い切って韓国語で話しかけてみました。すると、ガヨンは私の目を見てニコニコの笑顔で「イエス!!」と答えてくれました。小学六年生で初めて外国語の会話ができました。私はものすごく嬉しくて、興奮しました。その瞬間から、もっと日本語以外の言語の人とコミュニケーションをとりたい、交流して文化を知りたい、と思うようになりました。

私は、小学六年生の夏休みに「はばたけ21」という新潟市で行われた国際交流事業に参加し、一週間、ロシア、中国、韓国の小学生と共に過ごしました。先ほどの会話は、その事業で新潟市の散策をしている時の場面です。

ガヨンと話をしたことをきっかけに、私は特に韓国の文化に興味を持ちました。これは、「はばたけ21」のバス移動でのことです。私は、ガヨンと席が隣で数を数える時の指の折り方について聞きました。日本では人差し指から一、二と数えていき、最後に五で親指を開きます。しかし、韓国は親指から一、二と数えていき、最後に五で小指を開いて数えているそうです。私はとても驚きました。なぜなら、

日本と韓国はとても距離が近いので、そんなに細かいところは日本と変わらないだろう、と思っていたからです。こんなに小さいなことでも、日本と韓国は大きく違うことから、もっと異なる文化が韓国に沢山あるだろうな、と私は感じました。

それから私は、韓国語にも興味を深めていきました。そのきっかけは、KPOPです。

ガヨンとの出会いから半年、小学六年生の冬、学校でKPOPのTWICEがはやっていました。友達から教えてもらい、一遍で魅了されました。TWICEの曲はもちろん、アルバムに書かれているメンバーの言葉も韓国語です。私はその曲やメンバーの言葉の意味が、いつか理解できるようにになりたい、と思いました。

また、「はばたけ21」のガヨンとも、手紙やメールで韓国語で話したい、と思いました。その時に韓国のハングル文字を独学で覚えました。

中学二年生になった今、私の韓国熱はますます高まりました。韓国語の単語帳を買ってもらい、単語を勉強し始めたなら、実際に現地へ行つてコミュニケーションをとりたい、と思うようになりました。

そんなある日、私のアンテナが「ピビツ」と反応しました。それは、学校で韓国のウルサン広域市への派遣を募集する掲示物を目にした時でした。「絶対に行きたい!! 韓国へ行つて、日本の中だけに居ては気づくことのできない文化を学び、自分の目で見て感じたい、言葉の通じない環境で、自分の力でコミュニケーションをとり、沢山の人々と触れ合いたい。」

ところが、そんなに簡単には行けません。「選考試験」という大きな壁が立ちました。でも、私の熱意はひるむことなく、さらに先生方も協力してくださり、無事に選考試験を通過することができ

ました。結果を聞いた時は跳び上がるほど嬉しかったです。

ここから私の挑戦が始まります。まず、韓国へ行くことは単なる「旅行」とは異なり、新潟市の「代表」として沢山のことを学び、それを多くの人に発信する役割を担っているからです。そのために私は、積極的に行動し、コミュニケーションをとることが大切だろうと、漠然と思っていました。

ですが、先日行われた第一回事前研修会での説明で、「この派遣から帰ってきた子たちは皆、沢山吸収して帰ってきています。ですが、努力無しではそんなに吸収できません。だからね、皆一生懸命努力してたんだよ。」という言葉を受け、もっと強い覚悟が必要だと思いました。また、心構えや注意事項が記された紙が配られ、そこには、派遣を通して目指す姿として「考えて工夫する力」「行動する力」「お互い支え、協力する力」を伸ばす、と記載されていました。自分が吸収したことを帰国後に行動に移し、発信していくことが大切だと思いました。このことを事前研修、派遣先、事後研修で達成し、成長した自分になりたいです。初めて行く言葉が通じない環境ですが、考えて工夫し、仲間と支え合い、協力し合い、沢山のことを得て、多くの人々に発信することに挑戦します。

ガヨンと最初に言葉を交わした感動は、私の中で色あせることはありません。韓国へ行つて、実際に現地の人と言葉を交わす時、必ず心も通うはず、と私は思います。

心の交流、それが私の最も大きな挑戦となるでしょう。でも、その先には成長した自分が待っていると信じて頑張ります。